

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 るんるん		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 5日		令和8年 3月 4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 29日		令和8年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども中心の支援と高い満足度	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの特性や発達段階に応じた個別支援の実施 日々の様子を踏まえた柔軟な関わりと活動調整 保護者の意向を取り入れた支援計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 支援の成果や成長の「見える化」(記録・フィードバック強化) 成功事例の共有(保護者・職員間) 支援の根拠や意図を丁寧に伝える機会の増加
2	保護者との信頼関係と丁寧なコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 連絡帳や送迎時のこまめな情報共有 保護者の不安や疑問に対する丁寧な対応 日常的に話しやすい雰囲気づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 定期面談の仕組み化(頻度・内容の明確化) ICTツール等を活用した情報共有の効率化 保護者同士の交流や情報交換の機会づくり
3	安全配慮と安定した運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 清潔で安全な環境の維持 契約時や日常での丁寧な説明 基本的な安全対策やルールの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 安全対策や緊急時対応の「見える化」(掲示・説明) 保護者への具体的な取組の発信 定期的な振り返りと改善サイクルの強化

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援内容や取組の「見える化」の不足 (職員は実施しているが、保護者への伝わり方に差がある)	<ul style="list-style-type: none"> 日々の支援は行っているが、体系的に伝える機会が少ない 成果や意図が感覚的な共有にとどまっている 説明のタイミングや方法が個々に委ねられている 	<ul style="list-style-type: none"> 支援経過や成長を可視化するツールの導入 定期的なフィードバック機会の設定 「何を・なぜ行っているか」を意識した説明の強化
2	保護者参加・交流の機会不足	<ul style="list-style-type: none"> 日常の個別対応が中心で、横のつながりが生まれにくい 交流機会を設ける時間・余裕の不足 ニーズはあるが仕組み化されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会やミニ交流会の開催 参観日・参加型イベントの企画 オンラインを活用した情報交換の場づくり
3	リスク管理・緊急時対応の“安心感”の伝達不足	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルや体制はあるが、保護者への周知が限定的 実際の対応イメージが伝わりにくい 訓練や取組の共有機会が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応の流れを分かりやすく資料化・配布 避難訓練の実施報告や見学機会の提供 ヒヤリハットや改善事例の共有